

市長賞

「娘から学ぶこと」

奥田 留美子さん（京都市上京区）

私は、四月から小学生になった知的障害の娘と一緒にバス通学をしています。二年生になったら一人で登校できる事を目標に、四月に誕生した長男を抱っこしながら毎日三人で頑張っています。そんな娘が、12月から突然「一人でバス乗れるし！一人で行く！」と頼もしくも、驚きの一声。ランリュックをさっそうと背負い「いってきます！」と出て行く娘を急いで支度し追いかけてきました。バス停までは大人の足で5分程、娘は10分弱かかります。大通りの信号のある交差点の横断歩道を渡ったいつものバス停に、一人バスを待っている娘の姿に感動と動揺を隠せない私。一瞬悩みましたが、その間にいつものバスが到着し、娘は迷うことなく一人で乗って行きました。心臓がバクバクする中、急いでタクシーに乗り先回りして、降りるバス停で娘を待ちました。同じ学校に通学するいつものメンバーのお友達と一緒に無事おりてきました。娘の誇らしげな自信に満ちた表情は、また一步成長し、私から離れていく姿でもありました。体中の緊張が一気にとけ、気付くと涙で顔がぐちゃぐちゃでした。嬉しいやら、心配やら、でもやはり喜び・・・言葉にできない心境でした。

その日から付添いではなく、追跡登校の始まりでした。初めの頃、お友達が「お母さんは？」と娘にきき私を探している様でしたが、何日かすると“一人通学しているんだ”と、察してくれたと思われ遠くで見えても娘をきにかけて優しく接してくれている様子がわかり、本当に嬉しく思いました。毎朝、各所で会う大人の方々も『一人で学校いくのね。えらいね。気をつけて行ってらっしゃい。』か何か、声をかけて下さっている様子がわかります。他にも見守って下さっている方々が娘の行く先々には、たくさんおられることを改めて知り、感謝の気持ちで一杯になりました。

独身の頃には気付かなかった地域との関わりの大切さを我が子を通して教わる日々です。付き添いバス通学中、長男を抱っこしていた私に、席をゆずって下さる心優しい方々にたくさん出逢いました。そのバスには視覚障害者の方も乗車されており、席をゆずったりはもちろんのこと降りられる時のお手伝い（通路を開けてくれるように声をかけたり、出口まで誘導したり・・・等）を率先してされている女性には頭の下る思いでした。時にはどなたも席をゆずって差し上げる様子がない時もありました。長男を抱っこしている私が席を立つことの方が迷惑ではないかという葛藤の中、いてもたってもいられず、席をゆずり座って頂くこともありました。それを見ていた小学生の子供さんが私に席をゆずってくれました。子供達は大人の様子を見て学んでいるのだと関心しました。

言葉で教えるのは簡単ですが、実践にうつすのは難しいものです。しかし、子供達は大人の実践を見ていろいろと感じとっているのだと思いました。いつか娘も、そういう判断力がつき実践することが出来たらいいなあと思っています。子供達は皆、ピュアな心を持っています。その心を優しくのびやかに育てるのは親だけではなく、周囲の大人全てが影響するのだと感じました。娘とのバス通学という貴重な経験を通して、私自身いろんな事を学ぶことができ感謝しています。「育児」は「育自」という様に、自分自身を育てる事、子供に育てられている事を実感する日々です。これから先も、多くの壁はやってきます。しかし、必ず乗り越えられると信じ、娘の成長を、娘のペースで共に楽しんでいきたいと思っています。